

## 人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

### 1. 基本情報

都道府県名及び市町村名

北海道札幌市

学校名

札幌市立真駒内緑小学校

学校のURL

<http://www.makomanaimidori-e.sapporo-c.ed.jp/>

### 2. 学校紹介

学級数

【通常の学級】全学年各2学級（計12学級）

児童生徒数

【全児童数】419人（平成23年12月22日現在）  
（内訳：1年生61人、2年生67人、3年生63人、4年生70人、5年生80人、6年生78人）

学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【人権教育に関する目標】

「人と関わりながら自尊意識と相手意識を高める教育活動～人権教育への取組～」

人権教育にかかる取組の全体概要

本校は今年度の学校経営の重点目標として「確かに学ぶ力と豊かな心をもち、たくましく生きる子どもの育成」をかかげ、「子どもが明日も来たいと思う学校」の実現に向けて教育活動を続けている。

「確かに学ぶ力」とは、新たな知を獲得するという学習のプロセスを重視する「学びを獲得する力」そのものとする。「豊かな心」を育成するため、本校では特に人とかかわる力を育てることを重視している。その基盤となっているのは、相手意識や自尊意識を高めることだと考える。

そのため、本校では教育活動全体を通して、人との関わりの中で自尊意識と相手意識を高めることを大切にしている。自分に対して肯定感や有用感をもつためには自分のよさに気付くことが必要であり、他者を大切に思う気持ちをもつためには他者のよさに気付くことが必要である。自他のよさに気付く感覚や、自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を育て、互いの違いを認め受容する力を伸ばす教育活動によって自尊意識と相手意識が高まる。そのことは、一人一人がかけがえのない人間として尊重し合うことにつながり、豊かな人間性を育むという研究主題とも方向性が一致していると考えられる。

### 3. 特色ある実践事例の内容

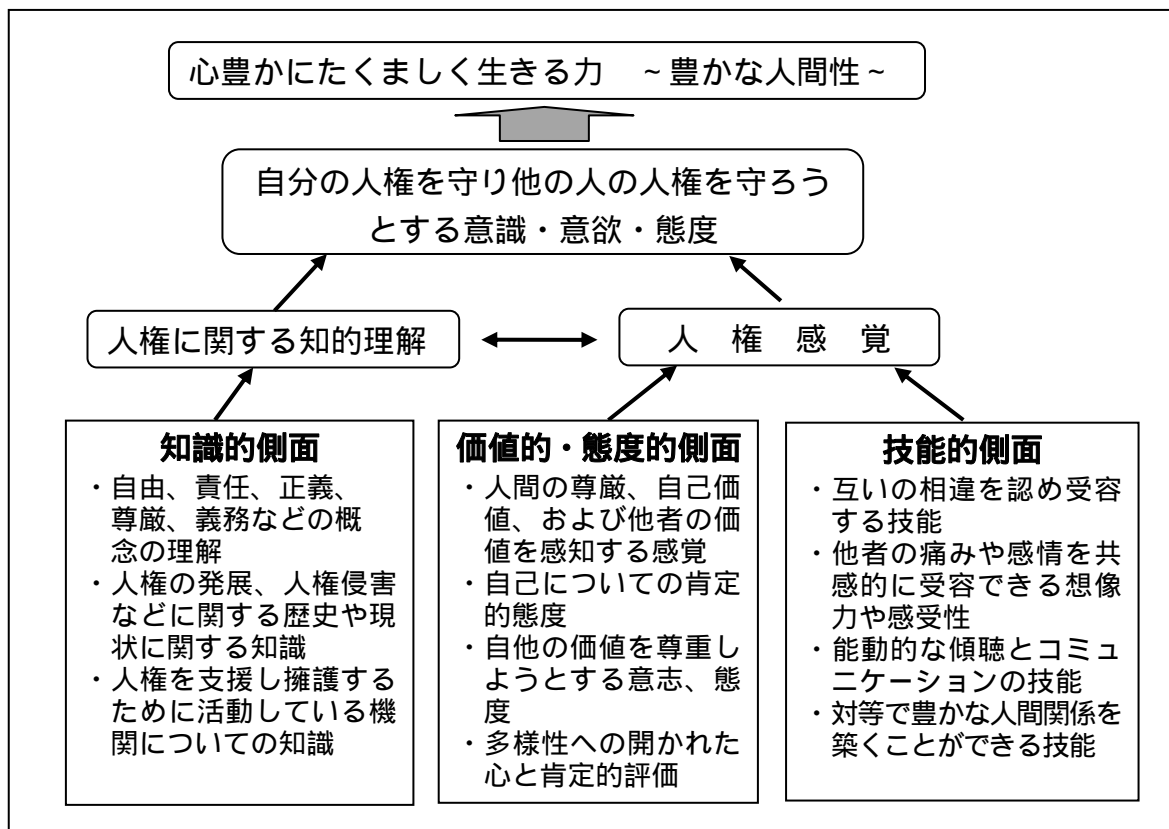
研究主題「豊かな人間性の育み」に向けて

「いじめ」に代表されるように、社会全体の問題として、人と同じであることを重視し違っているものを排斥しようという傾向がある。そこには、自分も他者も人としての尊厳や価値があるという強い意識を感じるができない。現在教育活動全体を通じて、人権教育が推進されているが、知的理解にとどまり人権感覚が十分に身に付いていないことに原因があると思われる。

人権感覚とは、人権が擁護され実現されている状態を感知して、これを望ましいものと感じ、反対に、これが侵害されている状態を感知して、それを許せないとする感覚をいう。知的理解だけではなくこのような感覚をもつことで、自分と他者との人権擁護を実現しようとする実践力や行動力が身に付く。

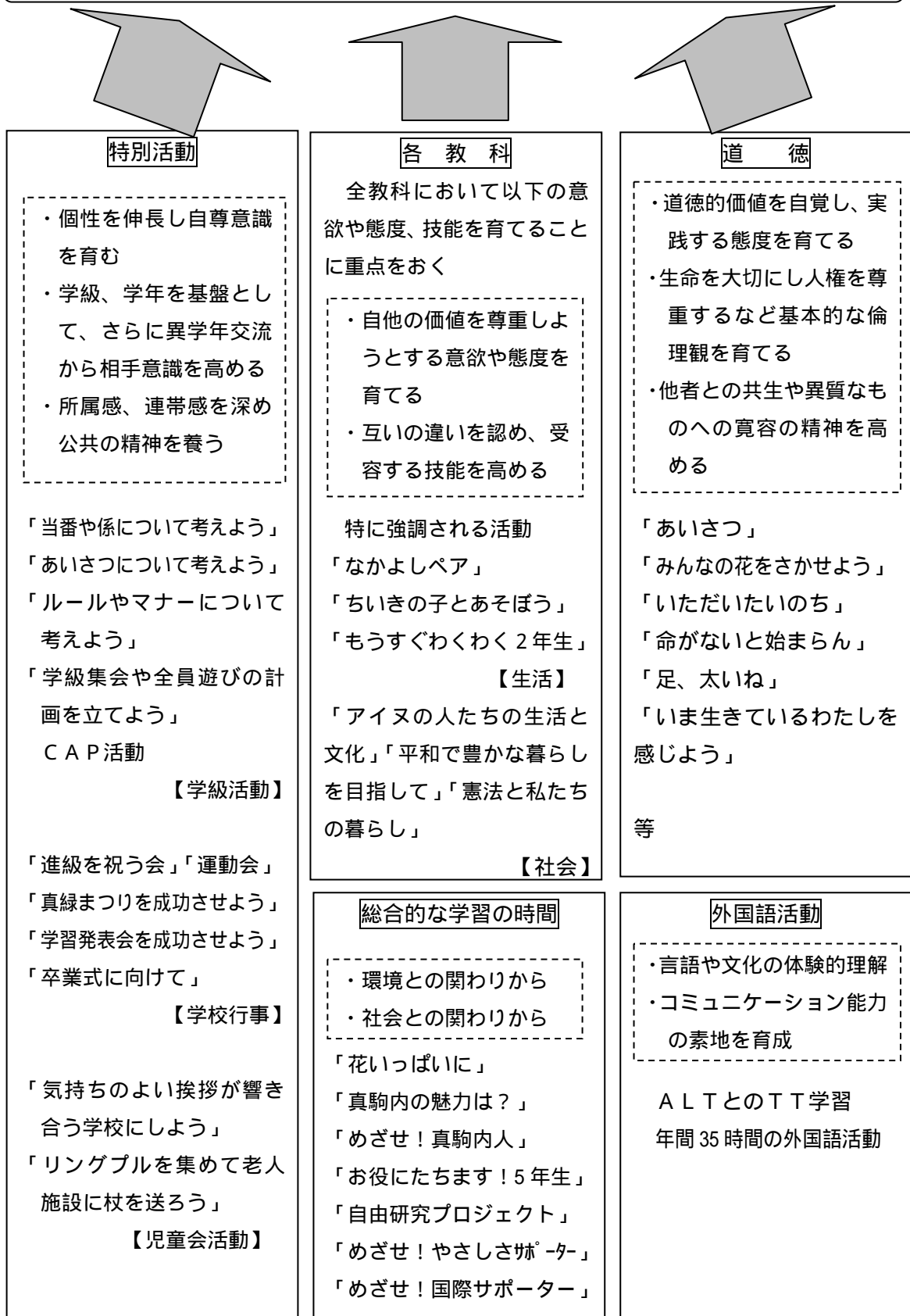
人権感覚を身に付けるためには、自他の価値を尊重しようとする意欲や態度、互いの相違を認め受容できるための技能、他者の痛みを共感的に受容する想像力、他者の話を聞き自己表現を可能とするコミュニケーション技能などが必要である。子どもはこれらの態度や技能を自らの力として身に付けることで、学校内だけではなく地域においても、多様性に対して開かれた心をもち、互いの違いの中に価値を認め合い、自分も他者をもかけがえのない人間として尊重し合うことができる。

このように人権教育を推進し、人権に関する知的理解だけではなく人権感覚を高めることは、一人一人がかけがえのない人間として尊重し合い、支え合い励まし合う人間関係を構築することにつながり、心豊かにたくましく生きる力を育てていくと考える。



# 真駒内緑小学校教育課程での人権教育

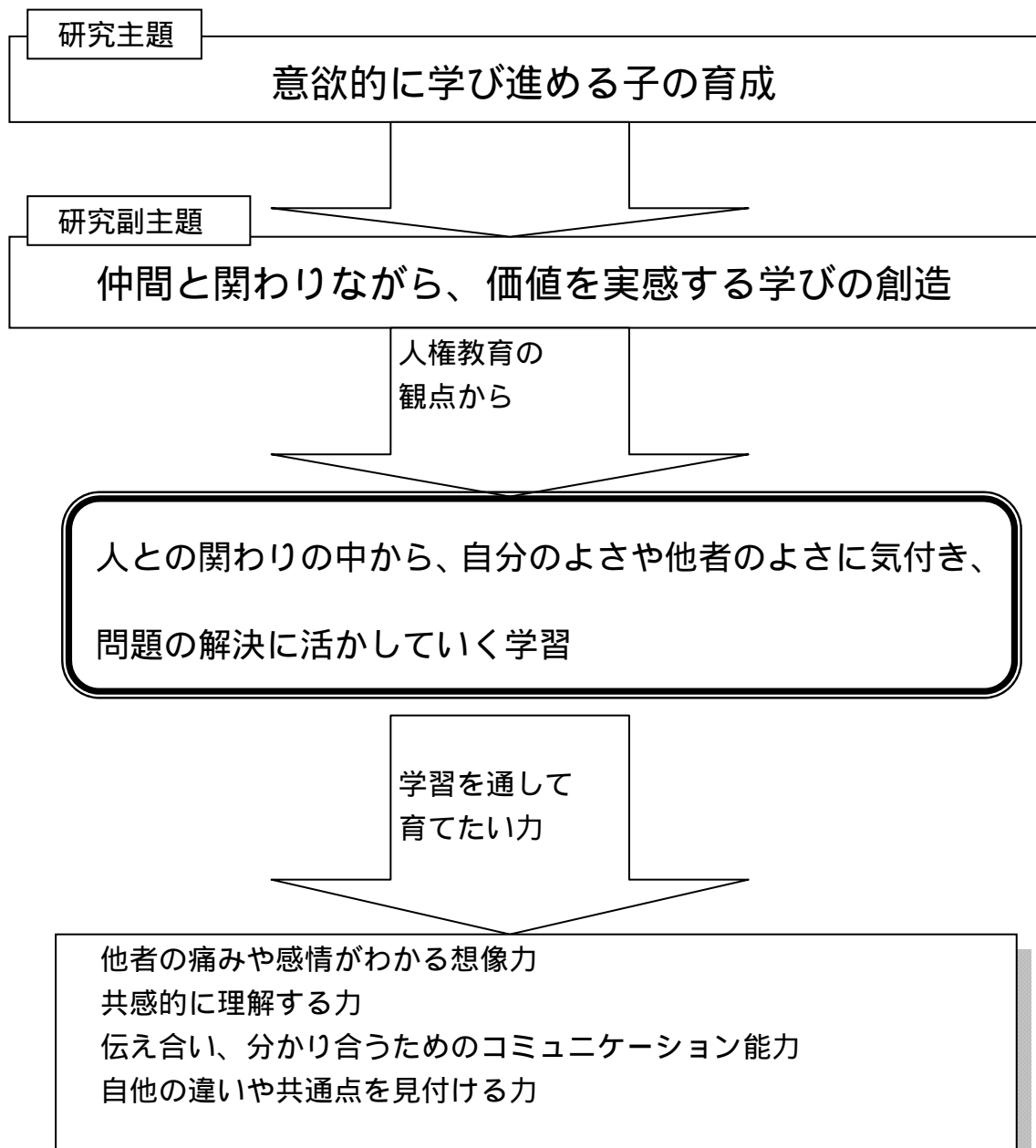
## 人と関わりながら自尊意識と相手意識を高める教育活動～「人権教育」



## 本校研究と関わって

今年度、本校の研究副主題として「仲間と関わりながら、価値を実感する学びの創造」が設定された。仲間と思いを伝え合いながら自分と仲間との共通点や違いを浮き彫りにし、自分の学びの見直しを図り問題解決に結び付けていく学習である。

ここで、「仲間との関わりの中で、自分のよさや他者のよさに気付くこと」が人権教育の観点から重要になってくる。本校の人権教育では、仲間との関わり合いの中で、それぞれの考え方の中にある「よさ」やみんなの考えを出し合うことによって生まれる「よさ」を明らかにしながら、研究を進めていきたいと考えている。



#### 4. 実践事例の実績、実施による効果

##### 研究の視点

###### 【視点1】自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を育てる学習展開

一人一人が人間として尊重し合うためには、自分や他者の価値に気付き、それを肯定しようとする意欲や態度をもつことが必要である。

そのためには、まずそれぞれの子どもよさが明らかになる活動を設定する必要がある。この活動においては、子どものもつ様々な考えの中からよさを見付け、価値付けていく教師の関わりが重要になってくる。自分の考えの価値を認められた子どもは、自分のよさに気付き、自分に対して肯定的な意識をもつことができる。

この自己有用感は、自分の考えを表現したり、他者の考えや気持ちをくみ取ろうとしたりする意欲へつながる。子どもがこのような意欲をもったときに、お互いのよさを認め合う場を設定することで、自分や他者のよさを実感することができる。

このような経験を積み重ねることで、自他の価値を尊重しようとする意欲や態度が育っていくと考える。

###### 【視点2】互いの違いを認め、受容する力を高める関わり合い

学校では多くの場面において集団で学習を進めており、自分のよさや他者のよさが明らかになり認め合うような活動は、仲間との学び合いの中で生まれてくる。

子どもはその子なりの見方や考え方をもち、それぞれのよさがある。互いの違いを受け入れ、その中によさを認めるためには、自尊意識に基づいた適切な表現力、他者の思いを共感的に受容する想像力や感受性、コミュニケーションの技能等が必要となる。子どもがこれらの力を身に付けるためには、学習活動の中に目的がはっきりとした関わり合いの場を教師側で設定することが大切である。

関わり合いの場を通して、仲間の学び方や考え方に触れ、よりよい考え方に気付いたり、新たな表現方法を得たりすることができる。また、仲間から自分の解決の手がかりをもらうこともできる。自分の考えがみんなに認められたり、自分の考え方がみんなの問題解決の役に立ったりする。自分も含め仲間みんなの考えを出し合うことで、共通して大切にしなければならないことが明らかになり問題解決につながる。さらに、自分を含めみんなの考えを出し合うことで、問題が焦点化し、話し合うべきことが明らかになることもある。

このような関わり合いのある活動や具体的な体験を整理し価値付け、それらを経験として一般化することで、互いの違いを受容するための表現力、想像力、感受性、コミュニケーション力などが身に付いていくと考える。

# 道徳の時間 学習指導案

児 童 4年1組37名・4年2組38名

## 1. 題材名

「なにかお手つだいできることはありますか?」(思いやり、親切)

## 2. 題材の目標

相手の置かれている状況やそのときの心情を想像し、それに共感することによって、思いやりの心をもって素直に行動することのよさを理解することができる。また、いつも相手の立場にたって物事を考えようとしたり、その上でよいと思ったことを行動に移したりする心地よさを感じ、今後の生活でも実践していこうとすることができる。

## 3. 研究の視点

### (1) 自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を育てる学習展開

この時期の子どもたちは、困っている人に親切にしてあげたいという気持ちはもっている。しかし、さまざまな原因によってそれを素直に行動に移せないでいることも多い。資料「なにかお手つだいできることはありますか?」の主人公「ぼく」は、電車の中で目の不自由な女の人を見かけ、気になりながらもしばらくは、はらはら見ているだけだった。しかし、やっと「なにかお手つだいできることはありますか?」と声をかけ、親切にできたという内容である。ここでは、自分の経験を振り返りながら、思いやりの気持ちはもっているものの、なかなか行動に移せない主人公の心の中を推測していくことが重要である。そこで、主人公の「手を貸してあげたい」という気持ちはおさえた上で、実際に行きとして親切にできない理由を具体的に考えることが必要である。そして、それを乗り越え、思いやりの気持ちを行動に移すことができた主人公の喜び、また手を貸してもらった側の気持ちを十分に感じられるようにしたい。さらに、CMに出てくる言葉を提示することによって、温かい気持ちを行動にして表すことの大切さを考えさせ、日常の生活にもつながる心と態度を育みたい。

### (2) 互いの違いを認め、受容する力を高める関わり合い

本時では、思いやりの気持ちをなかなか行動に移すことができない「ぼく」の気持ちを想像し、交流する。この場面では、「見知らぬ人だから緊張するし、恥ずかしいんだよ。」などといった正直な気持ちを出し合うことが大切だと考える。そうすることによって、声をかけることができた時、相手に思いが伝わった時の喜びが、より明らかになってくると考える。

また、今回の学習で「相手の立場にたって思いやりの心をもって接し、大変な時にはお互いに助け合おう」とする気持ちを今後の学習や生活に生かしていきたいと考えた。そこで、総合的な学習の時間「MOT」との関連を図り、環境・福祉教育アドバイザーをゲストティーチャーとして迎え、高齢者の日常生活を疑似的に体験する活動や真駒内の地域にどんなバリアフリーの設備や工夫があるかを調べる活動につなげていく。さらに、これらの活動を通してわかったことや考えたことを高齢者のみなさんに伝える学習を行う。そうすることによって、相手の立場に立ち互いの違いを受けとめ、自主的に自分にできることを考え、実践する力を培うことができると考える。

何とかしてあげたいという気持ちがありながら、素直に声をかけられない「ぼく」の心の中を想像することを通して、相手の立場に立って考えることや思いやりの気持ちを行動に移すことの大切さに気付くことができる。

### 5. 本時の展開

子どもの意識と活動	教師の関わり
<p>こんな場面…何を考えているのかな？</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 30%;">おばあさんのことを「大変そう」と思ってるんじゃないかな。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 30%;">でも、何をしたらいいかわからなくて困っているよ、きっと。</div> </div> <p>本当はどうか？心の中は…見えないね。</p> <p>・「なにかお手つだいでできることはありますか？」を読む 目の不自由な女の人を見ている時、「ぼく」はどんなことを考えたのかな？</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 30%;">だいじょうぶかな。ぶつかったら大変なことになっちゃうよ。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 30%;">どうしたらいいかな。だれか、助けてあげてくれたらいいな。</div> </div> <p>「ぼく」はどんどん心配する気持ちが強くなっていったんだね。</p> <p style="text-align: center;">でも…</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">なかなか声が出ない</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> <b>心配している気持ちはいっぱいなのに、 どうしてなかなか声がでなかったのかな？</b> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 30%;">知らない人だから はずかしいんだよ。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 30%;">どう声をかけたらいい か不安だったんだよ。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 30%;">他に助けてくれる人が いたらと思ったかも。</div> </div> <p style="text-align: center;">でも、やっと…</p> <p>「ぼくにつかまってください。」  「ありがとう…助かりました。」</p> <p style="text-align: center;">ほっとして… <span style="margin-left: 100px;">にっこり</span></p> <p>「ぼく」も「女の人」もどちらも嬉しい気持ちになったんだね。</p> <p style="text-align: center;">さっきの学生は、あの後、どうしたかな？</p> <p style="text-align: center;">よかった…やっぱり声をかけたんだね。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> <b>「思い」は見えないけれど「思いやり」はだれにでも見える</b> </div> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 90%;"> <b>人に優しくするって照れたり恥ずかしかったりするよね。でも、誰でももっている優しい気持ちを素直に行動に移すことで、相手に思いが伝わるんだね。そして、お互いに嬉しい気持ちになれるんだね。</b> </div> <p>・感想をワークシートに書く これからも相手の立場に立って考えたいね…「疑似体験」をしてみよう！</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・階段を上るおばあさんを見ている学生の写真を提示し、気持ちを想像させる。</li> <li>・相手のことを思いやる気持ちが十分にあることをおさえる。</li> <li>・自分たちの経験もふまえ、正直な思いを引き出す。</li> <li>・助けたいという優しい思いを行動に移す大切さに気付かせていく。</li> <li>・行動に移したことで、相手も自分も嬉しい気持ちになった理由を考えさせる。</li> <li>・導入時の写真の続きを提示し、言葉の意味をおさえる。</li> <li>・今後の学習や生活につなげていくように促していく。</li> </ul>

## 6. 実践の成果と課題

### 【視点1】自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を育てる学習展開

#### 【成果】

- ・ C の「思いは見えなくても、思いやりは見える」というフレーズを提示することで、行動に移すことの大切さに気付かせ、自分のふだんの様子を振り返るきっかけとすることができた。
- ・ 次時の高齢者や目の不自由な方の疑似体験では、本時の学習を受け、実感的に大変さや自分たちの役割の重さに気付く姿につながることができた。何気ないことが高齢者や目の不自由な方にとっては大変なことであることをとらえ、自分たちの助けの必要性を実感していた。
- ・ バリアフリーのような設備や手助けしている人を身の周りから見付けたり、自分にできることはないか考えたり、学びを生活に戻していくことができた。

#### 【課題】

- ・ C をもっと効果的に活用すればよかった。  
C の「思いは見えなくても…」の後に、どんな言葉が続くかを考えさせ、自分自身の学びをアウトプットする活動も考えられた。アウトプットすることで、言葉で短く表現し、自分の学びを振り返ることができたのではないかと考える。
- ・ C の内容と資料「なにかお手つだいできることはありますか」の内容が類似しているので、C をはじめに提示する際にかける時間を短くしてもよかった。そうすると、上記のような活動を取り入れていくことができたと考えられる。また、一人一人の心の葛藤を生む時間をつくることができたのではないかと考える。

### 【視点2】互いの違いを認め、受容する力を高める関わり合い

#### 【成果】

- ・ 自分のふだんの生活を振り返り、よいことだと分かっているにもかかわらず、体の不自由な方やお年寄りに手を貸すことができない主人公の気持ちに共感することができた。そうすることで、「手を貸さない人が悪い。」のではなく、「なんとかしたい。」という思いをもちながらも行動に移すことができないこともある、という心の葛藤を認め合うことができた。
- ・ 体験学習を通して、高齢者や体の不自由な方の“思うように体を動かすことのできない”という歯がゆさや大変さを感じていた。自分たちと同じように行動できるのではなく、何気ないことでも苦労をしていることに気付かせることができた。そうすることで、高齢者や体の不自由な人を思いやり、「少しでも助けになりたい。」という心を育てることができた。

#### 【課題】

- ・ 資料に出てきた主人公のように、高齢者や体の不自由な方に対して「なかなか声をかけられなかった。」という経験を子どもたち自身からも引き出そうとした。しかし、「自分はできるよ!」「実際にしたことがあるよ!」と言っている子が多かった。また、実際にそのような場面に出会っていても、何かしなきゃという気持ちになっていない場合もあるようだった。周りにそのような方がいることに気付いていないことも多いのかもしれない。子どもの発達段階を考慮すると、時期を考えて実践することも考えられる。例えば、総合的な学習の時間で行った体験活動の後で学習することによって、周囲にいる人の立場や気持ちを考えることがスムーズにできるかもしれない。



## 実践を振り返って

真駒内緑小の人権教育にかかわる実践

人と関わりながら自尊意識と相手意識を高めるために…

### 【学級・学年】

日常の授業や様々な活動を通じて、仲間と関わり合う楽しさ、みんなで学ぶよさを味わうことを大切にしてきた。

その中で、自分がかげがえのない一人であることを実感するとともに、みんなのよさに気付いていく姿が見られた。

### 【異学年交流】

行事や全校朝会での発表などをきっかけに異学年での交流を多くもった。それぞれに思いやりの心をもって、関わり合いの輪を広げていった。

### 【児童会活動】

高学年が中心となり、各委員会の活動で温かい心を地域に届けた。地域の人と挨拶を交わしたり、学校での取組を知ってもらうことによって、「学校が身近な存在になった」という地域の方からのお話もあった。

### 【地域の人とのふれあい～総合的な学習の時間など】

総合的な学習や生活科の学習を通して、地域の方とふれあう場を多くもつようにした。例えば、[街路樹下に花を一緒に植える][自分たちが調べたことを発表し聞いてもらう][幼稚園の園児と一緒に遊んだり給食を食べたりする]などの活動を行った。異年齢の人とも笑顔でコミュニケーションをとろうとしていた。また、それぞれの活動をきっかけとして、学校外で地域の方に出会った時にも、挨拶を交わし合う様子も見られるようになった。子どもたちが地域と共に成長するよさを実感した取組となった。

## 【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

札幌市立真駒内緑小学校

地域的に上記の曙小学校と隣接していることもあって、共通の研究テーマを設定している。本校では、全教科領域を通して「意欲的に学ぶ」ことを研究の中心にして、学習展開の在り方を追究し、そこでの子ども個々の学習活動を丁寧に見取ることを工夫している。そのために、授業展開における子どもの人権意識の高まりを教師自身が学ぼうと努力している。その具体的な内容を、子どもの反応を予測した指導案の工夫に見ることができる。

決して形式的にならずに、各学年の発達に応じた子どもの人権感覚に学ぼうとする教育の指導の在り方を提案している。例えば、子どもの声に学ぶ、子どものその場の感覚を尊重する、子どもの意識に教師が寄り添うなど、人権教育の原点ともいえる成果を学べる研究である。また、学習展開を中心にした研究の定着を図るために、異学年交流や地域の人々との触れ合い活動などの実践も充実している。これらの研究によって、人権教育が目指す＜自他の価値を尊重する子ども＞の姿が具体的に浮かび上がっている。